

【様式1-1】

篠栗町橋梁長寿命化修繕計画

平成26年3月
令和4年10月更新

篠栗町都市整備課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

篠栗町は、福岡市から東へ12kmのところに位置し、東西8km、南北約7km、総人口31,620人（平成25年11月現在）で、鉾立山、八木山、若杉山の峰々に囲まれた緑豊かな町です。又、粕屋町、久山町、須恵町、宮若市、飯塚市と隣接し、福岡市のベッドタウンとしての住宅開発、ウォーキングコース、キャンプ場等のレクリエーション施設や170年の歴史をもつ篠栗四国霊場等があり多くの観光客が訪れます。

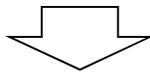
篠栗町では、166橋の橋梁が存在します。今回は、その中から75橋を重要な橋梁として選択し、長寿命化修繕計画を策定します。また、比較的健全で、かつ今回計画の対象としない91橋につきましては、日常点検および定期点検を行わない状況に応じた対策を講じます。

166橋の内、建設後50年を経過するものが5橋（3%）あり、20年後の平成46年には111橋（72%）にまで増加します。

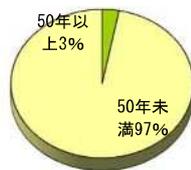
これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の事後保全型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が多額となることが懸念されます。

全橋梁166橋

平成26年度
5橋
(3%)

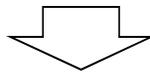


平成46年度
111橋
(72%)

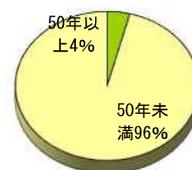


対象橋梁75橋

平成26年度
3橋
(4%)



平成46年度
55橋
(68%)



2) 目的

このような背景から、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくためには、計画的な維持管理の取り組みが不可欠となります。

また、コスト縮減のためには、従来の事後保全型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う” 予防保全型への転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要があります。

そこで本町では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

3) 全体計画の方針

●老朽化対策における基本方針

篠栗町が管理する道路橋に対し、健全度、重要度等を考慮し、対策の優先順位を設定し、今後10年間に於ける修繕計画を立て、延命化や修繕費用の平準化を図っていきます。

●新技術等の活用方針

今後5年間の短期計画として、修繕や定期点検において新技術の活用を効果的に行い、維持管理費用の縮減や事業の効率化を図っていきます。

●費用の縮減に関する具体的な方針

今後10年間に於いて、篠栗町が管理する道路橋の集約化及び撤去における統廃合の検討を行い、維持管理費用の縮減を図っていきます。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1級町道	2級町道	その他町道	合計
全管理橋梁数	60	29	77	166
長寿命化修繕計画策定対象橋梁数	58	12	5	75
対象外の橋梁数(10年に1度の定期点検)	2	17	72	91

長寿命化修繕計画の対象

- ・桁下に道路がある橋梁
- ・バス路線に位置する橋梁
- ・大型車両が通行する橋梁
- ・観光地へのアクセス道路に位置する橋梁
- ・通学路に位置する橋梁
- ・1級町道、2級町道に位置する橋梁
- ・近隣に公共施設がある橋梁

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

町職員の日常的なパトロールによる点検に加え、地域を通行される方々からの異常の報告と、「市町村における橋梁長寿命化修繕計画策定のための橋梁点検の手引き(案)」ならびに「管理者のための橋梁点検の手引き(案)」による5年に一度の定期点検(概略点検)により、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握します。

対象外となる91橋については、日常点検及び10年サイクルによる定期点検(概略点検)を実施します。

2) 日常的な維持管理による監視について

安全で円滑な交通の確保、第三者被害の防止を図るとともに損傷要因の早期除去を目的として橋梁の監視を行い、清掃、維持管理作業をこまめに行うことにより、軽微な損傷に対して応急的な対策を行いません。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

本町が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約72%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想されます。そこで計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標として、修繕及び架替えに要するコストを縮減します。

また、橋の健全度が低い道路橋を最優先（健全度Ⅳ⇒Ⅲ⇒Ⅱ）に修繕する計画とし、同じ健全度の道路橋については、重要度（道路種別、橋長、迂回路の有無等）が高い順に優先順位を設定し、道路橋の修繕実施を目指します。

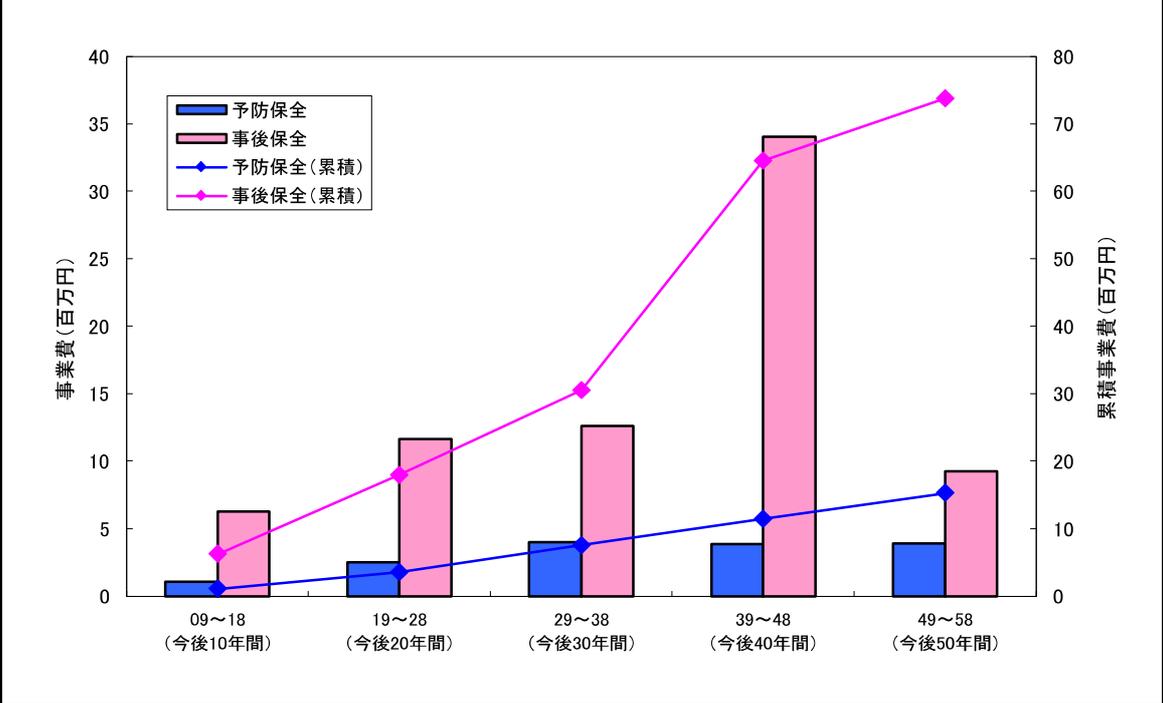
5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

様式1-2による

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する75橋と10年に1度の定期点検を行なう91橋の166橋について、今後50年間の総事業費を比較すると、従来の事後保全型が74億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が16億円となり、コスト縮減効果は58億円となります。

また、予防保全による維持管理を行なうことにより、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保されます。



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

篠栗町役場 都市整備課 tel : 092-947-1111

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

福岡大学 大学院工学研究科 添田 政司 教授

8. 集約化・撤去の検討（令和4年10月更新）

今後10年間に於いて、管理する160橋のうち、迂回路が存在し、集約が可能と考えられる2橋について、集約化・撤去を目標として検討します。また、集約化・撤去を実施することによる効果は、約2,500千円を目指します。

9. 新技術活用の検討及び修繕・維持管理費用縮減の効果算定（令和4年10月更新）

今後、5年間で4橋の補修工事に新技術・新工法を活用することにより、約7,500千円のコスト縮減を目指します。

